札幌市医師会西区支部役員会　在宅療養部報告　　令和３年12月17日

Ⅰ　西区在宅ケア連絡会262回例会

テーマ：「地域ケア会議から西区の課題を考える　part2」開催：　12月9日　18:30～　Hybrid形式(西区民センター)

11月11日に開催した西区支部地域ケアに関する研修会(西区在宅ケア連絡会261回例会)では、地域ケア会議の内容を受け“コロナ禍における西区高齢者の現状と課題”を地域の多職種の皆さんと共に確認しましたが、今回は、地域ケア会議をもう少し詳しく学びたいという声に応え、地域ケア会議のそもそもについて、学び合いました。西区の三か所の地域包括支援センター長による講演ののち、質疑応答しました。

◎個別地域ケア会議の説明

西区第３地域包括支援センター

○地域包括ケアとは

高齢者が住み慣れた地域で安心して尊厳あるその人らしい生活を継続する事が出来るよう、**介護保険制度によるサービスのみならず、その他のフォーマルやインフォーマルの多様な社会資源を本人が活用できるよう**にするため、包括的および継続的に支援する事。

○地域ケア会議を推進する全体のイメージ

・地域ケア会議の構築

・地域ケア会議の運営

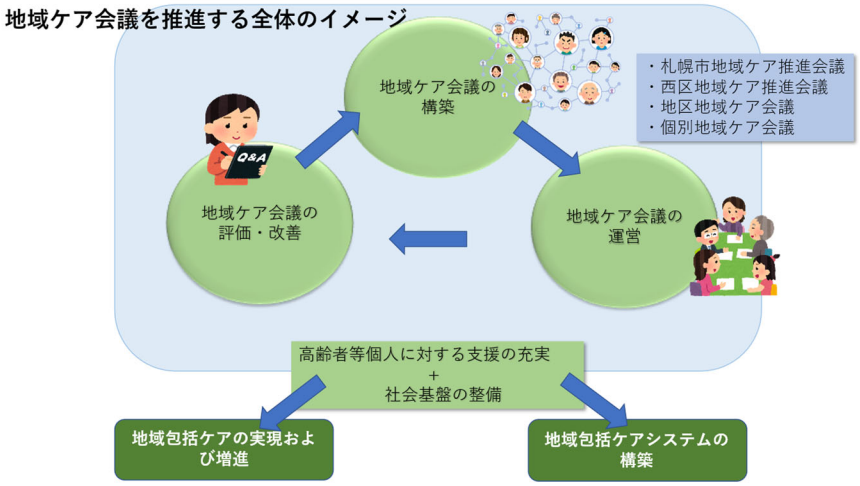
・地域ケア会議の評価･改善

・　→これらの繰り返しで、高齢者個人に対する支援の充実と社会基盤の整備を図る

・　そこから

地域包括ケアの実現及び増進、

地域包括ケアシステムの構築につなげる

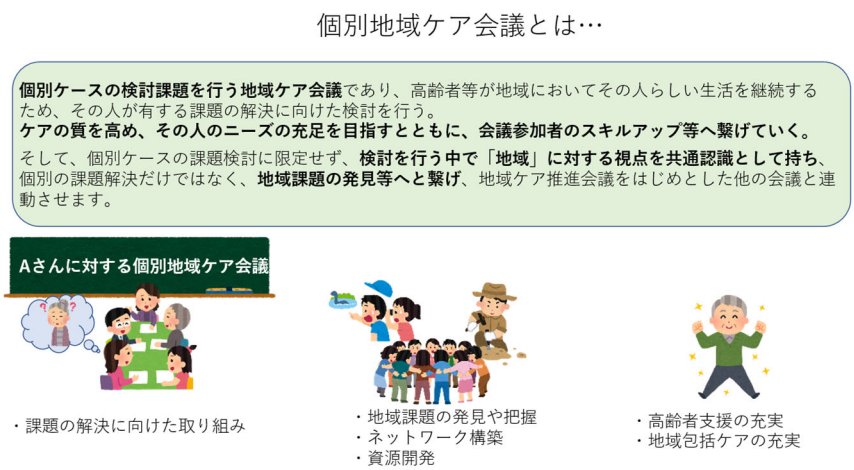


○個別地域ケア会議とは

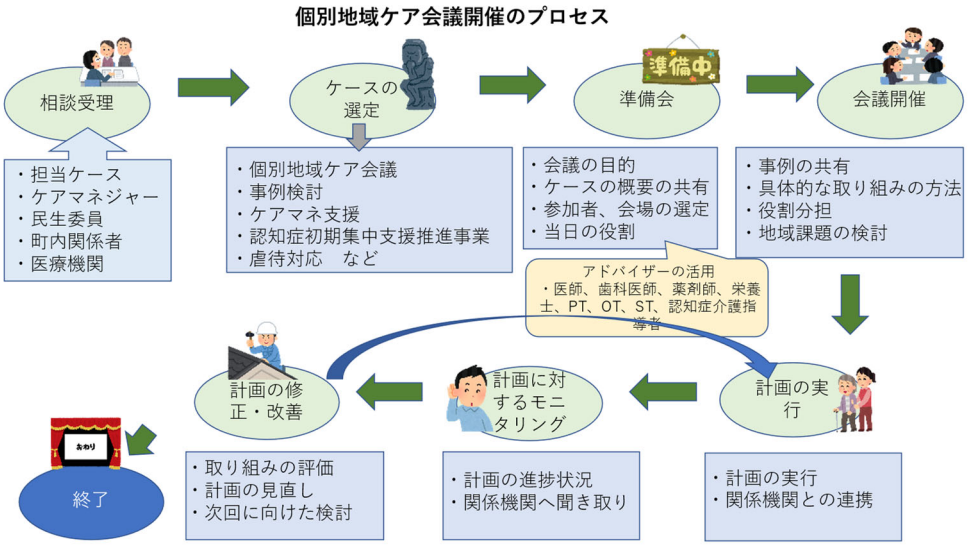
･個別ケースの検討課題を行う地域ケア会議であり、高齢者等が地域においてその人らしい生活を継続するため、その人が有する課題の解決に向けた検討を行う。

･ケアの質を高め、その人のニーズの充足を目指すとともに、会議参加者のスキルアップ等へ繋げていく。

･そして、個別ケースの課題検討に限定せず、**検討を行う中で「地域」に対する視点を共通認識として持ち**、個別の課題解決だけではなく、**地域課題の発見等へと繋げ**、地域ケア推進会議をはじめとした他の会議と連動させる。



〇個別地域ケア会議開催のプロセス
・相談受理。相談はセンターで受け付けた個別相談や担当しているケース、または、ケアマネジャーからの相談や民生委員、地域や町内関係者、医療機関など様々な所から受け付ける。
・ケースの選定　受け付けたケース全てを個別地域ケア会議にするわけではなくケースの特性や支援方法によってさまざまな事業へつなげる。その中で個別地域ケア会議が有効と判断した場合は会議の開催準備を行う。
・準備会。準備会ではセンター職員や場合によっては予防センターや生活支援コーディネーターなどをお呼びする場合もあり。また、解決に向けて札幌市が登録している専門職によるアドバイザーの活用も検討する。
・会議開催。会議ではケースの共有やアドバイザーから課題解決に向けたアドバイスも聞きながら支援方法や、役割分担を決める。
・会議で話し合われた取り組みを実行する。
・モニタリング。計画に位置付けられた支援方法について進捗状況などを参加者に聞き取りや再度集まって行う。
・モニタリングの結果、継続支援を行うのか、計画の修正を行うのか、終了するのかを判断する。継続する場合は、支援者や関係者と連絡を取りながら支援を行う。



個別地域包括ケア
年間12回

西区第2包括　個別地域ケア会議ケース紹介
（理学療法士のアドバイザー活用）

開催に至った経緯（事例）

・センター内で事例を選定。
・数年前に自転車で転倒して以来外出しなくなり、3か月に1回の病院受診しか外出をしていない。
・パーキンソン症候群あり筋力低下が進んでいる。
・日中も寝室で横になっている事が多い。

転倒せずにこれからも自宅での生活を続けて行くために、身体状況の確認とリハビリ運動の意識付けの為開催。

準備会

（準備会の参加者）
包括、区、予防センター

課題1：パーキンソン症候群の進行と筋力体力の低下がある。

課題2：リハビリテーションサービスの利用に対する意欲がない。

課題3：最近は、窓の外の様子も妻に確認するようになっている。

会議の様子

自宅+webで開催。
（会議の参加者）
アドバイザー：理学療法士
本人、妻、ケアマネジャー、包括
Web：予防センター、区保健師、主任ケアマネジャー

・理学療法士による動作確認

・パーキンソン症候群の説明

・本人のために必要な事を伝える。

個別地域ケア会議開催の結果

・専門医の受診する意向を確認。

・本人「運動が必要な事はわかった。出かけるのは嫌だが来てもらって運動するなら、やってみても良いと思えた。」

・妻「訪問でのリハビリを行っても良いと言う変化に驚いた。」

転倒しないで自宅で過ごす為にはどうしたらよいのか、ご自分の身体状況を理学療法士に評価して貰う事でわかり、必要なサービス利用につながりました。

◎個別地域ケア会議を活用した地域での見守り体制の構築について　西区第１地域包括支援センター

①開催に至った経緯

- ある日、民生委員から包括に、見守りの社会資源があるかと相談がありました。お一人暮らしのＭさんのことが心配の１市に住む息子さん夫婦から相談があったそうです。息子さん夫婦は、定期的にご本人宅に訪問していますが、遠方にいる事もあり、緊急時の対応を心配されているとのことです。
- Ｍさんには、以前、近所に友人がいましたが、友人が引っ越されたり他界されたりした等の理由から、現在は地域での社会交流が少ない状況で地域との繋がりも少ないそうです。
- 民生委員や担当ＣＭ、地域から詳細を確認し、包括内で課題整理を行った結果、本来望ましい姿と現状との差を埋めるための手立てとして、個別地域ケア会議を開催することとなりました。

②会議の要点や目的

- 個別地域ケア会議の開催に向けて 、区保健師、長男嫁、ＣＭ、包括専門職種と事前準備の話し合いを行いました 。
- その中で検討課題を確認し、会議まで、また、当日の役割分担を確認しました。
- Ｍさんは、認知症の診断があったり 、難聴により内容の理解が難しいなど周りの理解が必要だったり 、独居であることから安否確認や緊急時対応が遅れる可能性がある・・。
- 今の課題を抽出しＭさんにとって望ましい生活は何かを 確認していくこととしました。

③会議の様子

- 本会議当日は、先ずは、司会である包括職員から個人情報と守秘義務について説明・同意をいただき、Ｍさんの現状と検討課題について話し合いました。
- Ｍさんの現状を各担当から話していただき 、準備会で確認していた内容をもとに関係機関と話し合いました。
- 1時間くらいの中でしたが 、皆が、Ｍさんの望む生活のために何が必要で何が足りないのかを確認することができました。
- 会議の最後は、司会から今日検討した内容と今後の役割分担について確認を行い、個人情報の載っている会議資料を回収しました。

④個別地域ケア会議開催の結果

・Ｍさんが馴染みのある地域の中で認知症があっても安心して暮らしていけるようにという目標を持ち、家族や地域の方を繋ぐこと、地域の方に認知症を理解して頂くことができました。

・その後、Ｍさんは、結果として施設入所とはなったのですが、個別地域ケア会議をきっかけにご本人の周囲の関係機関を一つにつなげるきっかけになりました。

専門職種が個別地域ケア会議にアドバイザーとして参加を求められることがあり、今後は地域ケア会議における各職種の役割について協議して行きたいと考えました。

Ⅱ　今後の予定

〇連絡会の連絡会　令和４年１月 25 日(火)　 オンライン　18:30～20:00　“対談“と”Zoom 懇親会”　：　別紙参照

〇263 回例会　 令和４年２月 10 日(木)　18:30～　西区支部三師会企画との合同開催

テーマ(案)「西区の地域ケア充実における各職種の役割」

医師・歯科医師・薬剤師・看護師・リハビリ技士・MSW・介護職・ケマネジャー等々の代表から地域包括ケアの充実において、自職種(職能団体)に求められている役割について、発表(各５分程度)いただき、意見交換する。

〇264 回例会　 令和４年３月 10 日(木)　18:30～　西区支部「西区病院連絡協議会」との合同開催を検討　 内容未定